

令和7年度 静岡県立科学技術高等学校第1回学校運営協議会議事録(案)

開催日時	令和7年6月25日(火) 午前10時から正午まで
開催場所	静岡県立科学技術高等学校 応接室
委員	<p>追分 敏則(長沼二区町内会長)</p> <p>川村 文乃(会社役員・本校PTA副会長)</p> <p>佐藤 克彦(いなば食品株式会社静岡業務部部长) 欠席</p> <p>増田 一(静岡科学館「る・く・る」次長)</p> <p>三倉 和彦(静岡県発明協会事務局長)</p> <p>室伏 春樹(静岡大学教育学部准教授) (五十音順)</p>
学校	<p>大澤 貢 校長、田中 学 副校長、今野 由季子 教頭</p> <p>米田 哲也 教頭、鈴木 章司 事務長</p>
議事等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度学校経営計画について(全日制・定時制) ・校内視察
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度科学技術高等学校 第1回学校運営協議会～全日制資料～ (令和7年度学校経営計画書(全日制)) ・令和7年度科学技術高等学校 第1回学校運営協議会～定時制資料～ (令和7年度学校経営計画書(定時制)) ・静岡県立高校・特別支援学校における学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)導入の手引き<概要版> ・学校要覧、学校案内、部活動実績、新聞記事
<p>1 開会</p> <p>2 校長挨拶、委員の任命</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会長、副会長選出</p> <p>会長に増田委員、副会長に三倉委員が選出された。</p> <p>5 議事</p> <p>(1) 令和7年度学校経営計画について</p> <p>ア ミッション及びスクールポリシーの説明(校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日制課程は「理系の専門高校」という位置づけであり、「科学技術教育の拠点校として」「社会に貢献できる科学技術のスペシャリストの育成を目指す」というスクールミッションを具現化するため、「日常の学習習慣を定着させる。」「個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。」「探究的な教育活動を推進する。」「グローバル化への対応と国際理解、教育を推進する。」を重点的に取り組んでいく。 ・定時制課程は「工業科」である。生産現場を支えることができる人材を育てるため、基礎基本を重点的に学べるようカリキュラムを策定している。「カリキュラムマネジメント推進」「基本的生活習慣を定着させる」「就業意欲を向上させる」「特別支援教育体制を確立する」「交通安全教育を推進する」「教職員の資質、能力の向上」を重点的に取り組んでいく。 	

イ 学校教育活動への取組状況について説明（副校長）

- ・志願倍率の推移、卒業後の進路の推移等

ウ 意見・質問

(委員)・AI をこれからどのように使っていくのかが、普通高校以上に求められると考えられる。先生方の研修も必要になると思う。生徒にもどのように使わせるかということを考えて欲しい。

- ・安全について、部活動では熱中症に配慮し、安全に指導して欲しい。
- ・ものづくりを自らの意思でやりたいと思う生徒を育てて欲しい。ドライバーやニッパーを使ったことがない大学生もいる。引き続き、ものに触れて、道具を使うことを大事にして欲しい。
- ・AI について、ここ 3 年ほど急速に AI が発達している。教育委員会でガイドライン的なものがあるのか。
- ・文科省では AI ガイドライン 2.0 を発出している。県教委でブレーキをかけることがないよう指示している。利用年齢により保護者の同意が必要な場合がある。

(校長) AI を学ぶ科目については、学習指導要領に記載はないが、授業の中では例えば、自分でレポートを書いたときに文章校正をするといった使い方はしているのではないか。次の学習指導要領では指導すべき内容として、AI や ICT といったものがたくさん入ってくると思われる。

(委員)・メンタルヘルスについて。母親の立場としては、学校が安全・安心な場所であることを 1 番重要視したい。部活動で土日指導のある教員はいつ休んでいるのか。平日に休養することができれば、生徒に対して心の余裕を持って接することができると思う。

- ・コンプライアンス徹底の手法について。子どもたちにコンプライアンスを徹底しようとする、パワーハラスメントになりかねない部分もある。教員には、子どもたちが理解できる指導の仕方を学んで欲しい。

(委員)・スクールポリシー具現化の推進においては地域住民からの理解が不可欠である。新聞に科学技術高校の記事が掲載されたことで、住民にも学校の様子が伝わった。地域住民の目を意識しながら、どのような教育活動を進めていくのかを考えていって欲しい。科学技術高校がこれまでに加え、より一層、良い教育成績を残していけるよう努力されることを、地元住民として期待している。

- ・専門領域を超えた学びについて、機械工学科の生徒が、機械だけを学ぶのではなく、他の領域に共通点を見出すような、広い視野を育てて欲しい。理系と文系の垣根を超えた学びにも挑戦して欲しい。

(2) 議決

令和 7 年度学校経営計画が承認された。

6 校内視察

危険箇所等の有無の視点で、施設及び授業の見学を行った。

7 閉会